

城ヶ岳



令和3年 12月3日
第18号
佐世保市立宇久中学校
校長 萩山 栄二

●学校教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒」

●教育理念 「磨く」「輝く」「光る」「子どもは『希望』である」

< 小中合同避難訓練 >

■11月25日(木)に、地震・津波を想定した避難訓練を実施しました。この日は朝自習の時間帯に事前学習を行い、午後からの避難訓練に備えました。避難訓練は地震が発生したということを想定して開始しました。地震発生放送を受けて机の下に身を隠し、安全を確保した後、中学校の運動場にまずは一次避難です。その後津波発生想定で、さらに高台へと避難するため、エビスが丘運動公園に向かいました。小学生も同じように避難してきて、最後は地区別に並び、保護者に引き渡すことなども確認しました。

■「備えあれば患いなし」といわれます。地震や津波はないだろうというのではなく、もしかしたらこの宇久島でも発生するのかもしれないという想定をすることが大事なのですと、佐世保西消防署宇久出張所所長からご指導いただきました。「もしかしたら〇〇〇かもしれない」という意識をすることは「備え」の一つだと捉え、大切にしてほしいと思います。

■最後に佐世保西消防署宇久出張所署員の方から、避難に関する情報について、災害対策基本法の一部改正により、令和3年5月20日から警戒レベル4「避難勧告」が廃止され、「避難指示」で必ず避難へと変わりました、ということをご指導いただきました。避難に関する情報を踏まえて、慌てず、焦らず、落ち着いて行動することを心がけたいものです。



■東日本大震災での「釜石の奇跡」について紹介します。総務省消防庁のHPからの抜粋です。

岩手県の釜石市では、約1,300人もの方が亡くなったり行方がわからなくなったりしました。

大槌湾に面した鶴住居地区も、津波で壊滅状態となりました。しかし、この地区の鶴住居小学校と釜石東中学校にいた児童・生徒約570人は、全員無事に避難することができました。

これは「釜石の奇跡」とよばれています。

～ 中 略 ～

「釜石の奇跡」は、子どもたちが、単に運が良かったからというのではなく、この地域で日ごろから行われていた防災教育を学んだ子どもたちが自分たちの普段から行っている行動を当たり前実践した結果が起こしたものです。

子どもたちは、自らの手で登下校時の避難計画を立て、津波の脅威を学ぶため、年間5～10数時間の防災授業を受けていました。

また、年に1回、鶴住居小学校と釜石東中学校の合同訓練が実施され、「小学生を先導する」「まず高台に逃げる」という教えも徹底されていました。そして子どもたちは、次の「避難3原則」を徹底して身につけていたのです。

- ①想定にとらわれない
- ②状況下において最善をつくす
- ③率先避難者になる



< 生徒会選挙がありました >

■12月2日(木)、生徒会選挙のための立会演説、投票を行いました。2年生の3名が立候補し、宇久中学校についての思いや考えなどを演説しました。その後、全校生徒一人一人が真剣に考えて一票を投じました。当選者は、安永凜々さんでした。当選おめでとうございます。新しい学校の顔として、活躍することを期待しています。



< 11月の中学校です(第2弾) >

■22日：ピブリオバトル



■24日：全校レクリエーション



■24日：仲間づくりアクト



■26日：料理教室(家庭科調理実習)



■正面玄関の掲示物



一眼は遠く歴史の彼方を、そして一眼は却下の実践へ。
『森信三一日一語』から

